



# 青き風

CHANCE CHALLENGE CHANGE

石巻市立石巻中学校だより

文責：山内

—石中心得—

自主 自律 品位

第25号(新年号)

R6. 1. 9

## 本年もよろしくお願ひ申し上げます



保護者の皆様にとっての年末年始はいかがでしたでしょうか。おかげさまで、今のところ冬季休業中に石中生が命にかかわる大きな事件や事故に巻き込まれたという報告はなく、ほっとしています。けれども、世の中では、元日の能登半島地震、飛行機事故と、大きな災害が続いた正月でした。特に、能登半島地震は、東日本大震災を経験した私たちにとって、その被害の大きさや被災した方々の気持ちが痛いほど分かり、心を痛める年始めとなりました。

東日本大震災当時、私は石巻中学校で教務主任として勤務していましたが、避難所となった本校に、石川県や福井県、新潟県などの行政からも職員が派遣され、たくさんの支援をいただきました。そのことを思うと、今度は私たちができる限りの恩返しをしなければ、という気持ちでいっぱいです。

さて、令和6年の幕が開きました。保護者の皆様、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今日は始業式に先立って、能登半島地震によって亡くなられた方々に哀悼の意を表して黙祷を捧げました。始業式では、「3学期の抱負」と題して、生徒会代表の武川陽咲さん(1年)、1学年代表代理の熊谷綾華さん(代表生徒欠席のため代読)、2学年代表の鈴木真綾さん、3学年代表の近江あかりさん、特別支援学級代表の森山大輝くん(2年)がスピーチしました。どの抱負にも新しい希望と決意が感じられ、新年にふさわしい発表でした。

校長式辞では、はじめに能登半島地震に触れて話をしました。そして、各学年の生徒に次のようなメッセージを送りました。

「3年生は、9年間の義務教育最後の3か月となります。受験の壁を乗り越えて、4月からの新しい生活のための準備をする3か月にしてほしいと思います。そしてもう一つ、石中の卒業生としての誇りと感謝の気持ちをもって、その気持ちを形や姿に表して、この石中を巣立って行ってほしいと思います。どんな形や姿で表すか、とても楽しみにしています。」

「2年生は、3年生からバトンを受け取ります。そのバトンは“伝統”という名のバトンです。しっかり引き継いでほしいと思います。4月からは“石中の顔”と呼ばれる最上級生になります。最上級生としての振る舞いが求められることを自覚しながら生活してほしいと思います。」

「1年生は、4月から先輩になります。君たちが入学したときに、すごいなあと思った先輩や、あこがれた先輩がいたと思います。そういう先輩を目指して、新入生のよきモデルとなるための準備をする3か月にしてほしいと思います。」

また、生徒全体には石中心得「自主」「自律」「品位」の「自律」について、次のような話をしました。

「“自律”とは、自分の心を自分でコントロールして、今自分がすべきことを正しく判断して行動することです。私たちの毎日の生活は葛藤の連続です。例えば、したいことはもっとゲームをすること、でも今すべきことはテスト勉強、というように。夢を実現させるためには、自分の欲求をコントロールしてすべきことに向かおうとする力、すなわち“自律”の力を身に付けることが必要です。石中心得の一つである“自律”の力を身に付ける1年にしてほしいと思います。」

子どもたち一人一人がすばらしい春を迎えられるように教職員一同全力でサポートしていきたいと思いますので、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 朝に一声お願いします

ほとんどの生徒は、朝8時15分までに教室に入り、朝読書の準備ができています。けれども、寝坊したり家を出るのが遅くなったりして遅刻する生徒がいて、徐々に固定化してきました。8時15分までに教室に入っていないと遅刻となります。

時間を守ることは、子どもたちが将来社会人になったときに身に付けておかななくてはならない基本的な生活習慣だと思えます。

学校でも継続して声がけしていきますので、ご家庭におかれましても、お子さんが家を出る時刻が遅いようでしたら、余裕をもって家を出るよう一声かけてくださると幸いです。



## 防寒着の着用・保持のお願い

これまで集会等で子どもたちに「登下校で防寒着を着用するか、または持ってくるように」という話を何度かしてきました。

東日本大震災のときに、夕方から雪が降り始めて気温が低下し、低体温症で亡くなった人もいたことを例に挙げ、「自分の命を自分で守るための防災意識の一つが『冬季間に防寒着を保持していること』であり、必ず着てくるか、持ってくるように」と話していますが、子どもたちの着用率・保持率は7割程度です。

元日の能登半島地震でも、被災して各所に避難した方々が低体温症になるのを防寒着が防いだのは間違いありません。お子さんに着用・保持のお願いをお願いします。

## 後期の生徒会専門委員会の委員長を紹介します

後期の専門委員会の各委員長をまだ紹介していませんので紹介します。3年生から2年生へのバトンタッチです。

- 1 学年学級委員長 … 志田琥太郎くん(1-2)
- 2 学年学級委員長 … 栗野彪翔くん(2-2)
- 3 学年学級委員長 … 平居明哲くん(3-2)
- 生活委員会委員長 … 西條こころさん(2-3)
- 福祉委員会委員長 … 今野優大くん(2-2)
- 保健委員会委員長 … 小林菜々実さん(2-2)
- 給食委員会委員長 … 千葉瑞樹くん(2-2)
- 図書委員会委員長 … 齋藤万桜さん(2-2)
- 放送委員会委員長 … 眞砂悠翔くん(2-2)

各委員会のリーダーとして、よりよい石中生徒会にするためのチャレンジを期待しています。

## 事務担当からのお願い

1、2年生の給食費の口座引き落とし日が、1月25日(木)となっておりますので、残高をご確認ください。

口座残高不足で引き落としができなかったご家庭には、後日その旨を記載した文書をお渡します。その際は、現金で直接学校(事務担当)に納入することになりますので、よろしくお願い致します。

## 山内の“ひとりごと” Vol.11

私が大学生だったとき、沖縄県出身の男子学生がいました。「宮城県に来て、実際に目にして驚いたことは、本物の積もる雪を見たことだ」と言っていました。そして「もう1つ驚いたことは、絶対に枯れているとしか思えない木々が、春になって、葉がつき、芽吹いて、花を咲かすことだった」と言っていました。

沖縄には落葉樹はごくわずかしかないので、宮城県の冬の落葉樹を見ると、頭では分かっているけど、やはり感覚的にはどう見ても生きているとは思えなかったそうです。東北人にとっては見慣れた光景ですが、彼にとっては不思議なことに思えたのでしょう。

確かに、葉をすっかり落とした冬の木々を改めて見てみると、生きているとは思えないのもうなずけるような気がします。けれども、木はすっかり枯れているように見えて、実は目に見えない土の中で、来たるべき春に向けて、しっかりと根をはって力を蓄えているのですね。

この「目に見えない部分」が実はすごく大切なんじゃないかなと思います。子どもたちにとっても、冬は春に飛び出すための力を蓄える季節です。成長が見えにくい「冬」こそ、着実に努力を大切にさせたいと思っています。春に美しい花を咲かせることができるように……。

頑張れ、石中生！！